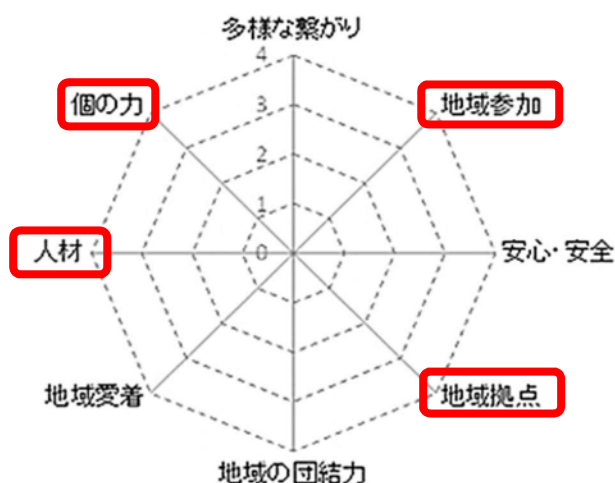


防災・防犯活動編

1 参加推奨モデル



災害・犯罪への備えは、まずは一人一人の備えがあることが前提であり、次に地域での支えあい、その上で行政との連携があります。このいずれかが欠けたり不十分だった場合、「その地域の防犯・防災力は弱い」ということとなります。

防災・防犯については、各自治体からの情報発信がとても役立つため、自治体の示す情報を活用することをお勧めします。

2 防災活動編

■ 「地域の防災力」とは

「川崎市地域防災計画」には次のようにあります。『災害による被害を最小限にとどめるためには、市民一人ひとりの防災意識の高揚と、地域住民の自主的かつ効果的な防災活動、さらに行政との連携を併せて行うことが必要であることから、個人（企業市民を含む）・地域・行政が協働し、自助・共助・公助の理念に基づいた防災体制を推進し、地域における防災力の向上を図るものとする（第2部第9章「防災力の向上」震災対策編令和元年度修正 p71）』。

災害への備えは、まずは一人一人の心構えと具体的な対策準備が重要となります。次に、地域での支えあい、その上で行政との連携があります。このいずれかが欠けたり、不十分だった場合、「その地域の防災力は弱い」ということとなります。

「ちいきのちからシート」で「防災力」が課題となった場合は、地域の防災力を高め、持続させていくために自主防災組織（もしくは、それに準ずる組織や活動）づくりをめざしてみたいかがでしょうか。

■ 自主防災組織とは

自主防災組織とは、災害時に地域で助け合うための組織です。

災害時には、消防をはじめとする公的な救助・救出が行われますが、地震や猛烈な台風のように大規模な災害の場合、公的機関の人員や救出機材を超えて救出が必要となります。

このため公的な救助だけで全員の方を救出するには、とてつもない時間が必要となり、救出に時間がかかるほど、生存率などが低くなります。このようなことから地域でいざという時に助け合うことができる体制づくりが重要となります。

■ 川崎市自主防災組織の手引きを活用する

自主防災組織については川崎市が平成 25 年に「自主防災組織の手引き 改訂版」を発行しているため、これを参考に進めることが効率・効果的です。

https://www.city.kawasaki.jp/170/cmsfiles/contents/0000050/50278/01_h25-2jisjubou-tebiki.pdf

全 32 ページで、自主防災組織の立ち上げから活動に向けて、コンパクトでわかりやすくまとめられています。

【自主防災組織の手引き 改訂版 目次】

- ・ はじめに
- ・ 自主防災組織とは
- ・ 自主防災組織の役割
- ・ 自主防災組織を立ち上げる
- ・ 災害時の活動
 - 風水害のとき
 - 地震のとき
 - 情報の収集・伝達
 - 避難誘導
 - 安否確認
 - 被害状況の確認・報告
 - 救出・救助・救護活動
 - 応急活動・初期消火活動
- ・ 災害発生後・避難所での活動
 - 協働による避難所の開設・運営
 - 情報収集・広報活動
 - 給食給水・生活支援
 - 安全点検・巡回活動
 - 自主防災組織の活動記録
- ・ 平常時の活動
 - 活動計画の作成
 - 防災知識の普及・啓発
 - ぼうさい出前講座の御案内
 - 災害時要援護者対策
 - 防災点検・防災マップ（ハザードマップ）づくり

- 防災訓練の実施
 - ◇ 情報収集・伝達訓練
 - ◇ 初期消火訓練
 - ◇ 救出・救助・救護訓練
 - ◇ 避難・誘導訓練
 - ◇ 給食・給水訓練
 - ◇ 地域との連携
- 津波災害や風水害に備える訓練の例

- ・ 地域で災害時要援護者を支援するには
- ・ 自主防災組織を もっと活性化させるためのヒント
- ・ 自主防災組織の 地域防災力を強化する
- ・ 災害に備える防災資器材を準備しましょう

■ 防災は、「平常時」の取り組みが最も重要です

・ 防災知識の普及

地域の方々が防災に関して、正確な知識を持つことができるように、みんなが楽しんで参加できるイベントや講演会などを開催し、継続的に防災知識の普及を行っていくことが大切です。

・ 危険箇所の点検

発災時に被害の発生や拡大の原因となるようなものや場所について、日頃から点検しておくことが必要です。

さまざまな災害に備えて、家の周りや家の中のチェック、家具の転倒防止や熱を出す器具の点検を行うとともに、地域の危険箇所の確認が大切です。

・ 防災資器材の整備

災害時に活動するために必要な機材を準備し、町内会館（自治会館）や集会所に防災倉庫を設けて保管し、定期的に利用訓練などを行うことで効率・効果的な救助活動が行えます。

<主な防災資器材>

簡易トイレ、ハンドマイク、携帯ラジオ、消火器、ヘルメット、はしご、ロープ、スコップ、ジャッキ、電動ノコギリ、担架、救急セット、テント、毛布、シート、発電機、夜間投光器、非常食料、炊飯道具など

・ 防災訓練の実施

いざというときに的確な行動を行うためにも、定期的に訓練を行い、一人でも多くの方に実践的な経験と能力を身につけていただく必要があります。また災害時に見知らぬ住民同士がスムーズに助け合うことは困難です。日頃からご近所の自主防災活動や町会・自治会活動に積極的に参加し、顔見知りを増やすことで、災害時のスムーズな助け合いにつながります。訓練方法や訓練実施については、麻生区役所危機管理担当にご相談ください。

3 防犯活動編

■ 犯罪者に狙われる地域

犯罪を行おうとしている人は、地域の住民から声を掛けられたり、姿を見られることを嫌います。そこで、犯罪者は、日頃のあいさつなど、住民同士の近所付き合いが希薄なまちや、ゴミ出しのルールが守られていないまち、ゴミ置場等公共の場所が散らかっているまち、街路灯の電球が切れたまま放置されているまちなど、他人や地域に無関心といった雰囲気のあるまちを狙います。

また、樹木を小まめに刈り込んでいないなど、周囲からの見通しが悪い公園等も、犯罪者がチカン等の性犯罪を行うために好都合な場所となるため、早期に改善することが必要です。

■ 防犯活動を始める

・すぐに実施できる防犯活動は「あいさつ」などの声かけ活動

「おはようございます」、「こんにちは」など、ご近所同士での声掛けは、防犯活動に効果的です。

もし、見慣れない人がウロウロしている場合には、勇気を出して「どちらへ行かれるのですか?」、「何か御用ですか?」等と声を掛けことも効果的です。犯罪者は、このたった一言で、「顔を見られた」と思い、その場所での犯行を躊躇（ちゅうちょ）したり、断念します。

・ 防犯パトロールを始める

町会・自治会、商店会等の方々を中心となってパトロールの仲間を集めて定期的なパトロール活動を行うことも高い防犯効果を生み出します。「自分たちのまちは自分たちで守る」といった意識のもとで集まった方々で始めてみて、徐々に活動の輪を広げていきましょう。

特に同じ時間でパトロールを行うより、不規則かつゲリラ的な時間帯でパトロールを行うことが効果的です。

パトロールは過去に犯罪が発生した場所や通学路等を中心に巡回することが基本です。それ以外にも、人気のない公園、駐車場、駐輪場等、普段から不安に感じる場所も見回しましょう。

特に昼と夜では、地域の様子が全く異なって見えるため、それぞれの時間帯で地域を観察してみることが大切です。

パトロールの方法、時間帯、場所など、具体的な実施方法については、麻生警察署へご相談ください。

・ 防犯パトロールの際に利用する物

- 携帯電話：緊急時の連絡用
- メモ帳：不審者（車両）や危険箇所を認めた場合の記録用
- 防犯ブザー・ホイッスル：緊急時の応援要請用

ベスト・腕章・帽子等の貸出を麻生区役所危機管理担当で行っていますので、ご相談ください。

・効果的な防犯パトロールに向けて

パトロール中、行き交う人々には、「おはようございます」、「こんばんは」等、積極的に声を掛けましょう。パトロール中であることが周囲から一目で分かるよう目立つ服装で行いましょう。蛍光色の帽子、防犯ベストなどパトロール用品を用意すると更に効果的です。

また、不審者を発見し、緊急性があると思った場合は躊躇（ちゅうちょ）せず、直ぐに110番通報しましょう。

4 活動について相談できる組織・団体 ※ P 59 連絡先一覧参照

- 麻生区役所地域みまもり支援センター
- 麻生区役所危機管理担当
- 麻生警察署生活安全課